

令和4年7月15日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大野 廣 介
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和3年度事業対象）
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、令和2年度に引き続き、学校教育及び社会教育の両面にわたって多くの制約を受け、事業の中止や縮小に至るものもあったが、コロナ禍においても既存事業の実施に向けた創意工夫や新たな事務事業に取り組んでいることがうかがえる。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに事務事業に取り組まれない。

記

- 1 令和3年度から中学校において新たに「英語能力判定テスト（英検 I B A）」を実施されたことは、生徒自身が自らの英語力を客観的に把握し、主体的な学習につなげるために有効な取組として評価できる。引き続き、子どもたちがさまざまな課題に対し、チャレンジできる環境整備も検討されたい。
- 2 公共施設のバリアフリー化が進む中、学校トイレの洋式化を始め、誰もが使いやすいトイレ環境の整備が図られていることは、評価できる。きれいなトイレは施設の魅力の一つでもあることから、引き続き、未改修となっている施設の改修を進めるとともに清潔な環境の維持に努められたい。また、小・中学校における多目的トイレの拡充についても検討されたい。

- 3 教職員の時間外在校等時間が多くなっている中、教職員の働き方改革については、学校全体の運営や個別の日常業務の工夫改善に加え、スクールサポートスタッフやICT支援員といった人材を有効活用するなど、着実に進められたい。
- 4 学校の行事予定などが町のホームページに掲載されているが、より一層見やすいページとなるよう工夫されたい。また、「学校の教育目標や教育活動の実施状況を明らかにする」との教育方針目標を踏まえ、一層の広報周知活動に努められたい。
- 5 令和4年3月に策定した「第4次子ども読書活動推進計画」をはじめ、他の報告書なども一般の住民の方々に読んでいただくために、意識して読みやすいものにしていただきたい。また、ホームページでの公開のみではなく、広報誌を活用するなど積極的な周知啓発に努められたい。
- 6 学校や家庭での悩みや困りごとを抱える児童生徒への対応として、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーといった人材を活用しながらチーム学校として取り組まれていることについて評価する。引き続き、複雑・多様化する子どもたちの悩みや困りごとに対応する体制づくりに努められたい。
- 7 「危機管理マニュアル」の点検・見直しについては、毎年実施している訓練や点検を通じてマニュアルを確認する機会を設け、危機管理意識のより一層の向上に努められたい。
- 8 「スポーツリーダーバンク」登録制度の更なる充実を期待する。スポーツリーダーバンク登録者の更新や学校との情報共有を進めることで、中学校の部活動指導が行える制度とするなど、今後の部活動の地域移行を見据えた体制整備について検討されたい。
- 9 こども会育成連絡協議会に入っている地区こども会の数が減少しており、各地区でのこども会活動も役員の担い手不足等で円滑な運営が行われていない状況がうかがえるなど、社会教育団体の活動が先細りとなっている。各団体の活動が継続できるよう育成・援助を行い、活動の活性化につなげられたい。
- 10 子どもの読書活動推進のために図書館がさまざまな取り組みを行っていることは評価できる。今後更に本に興味を持たない子どもに向けて、保護者も含め子どもが本の魅力に気づき読書習慣が身につくようなさまざまなイベントの実施に努められたい。